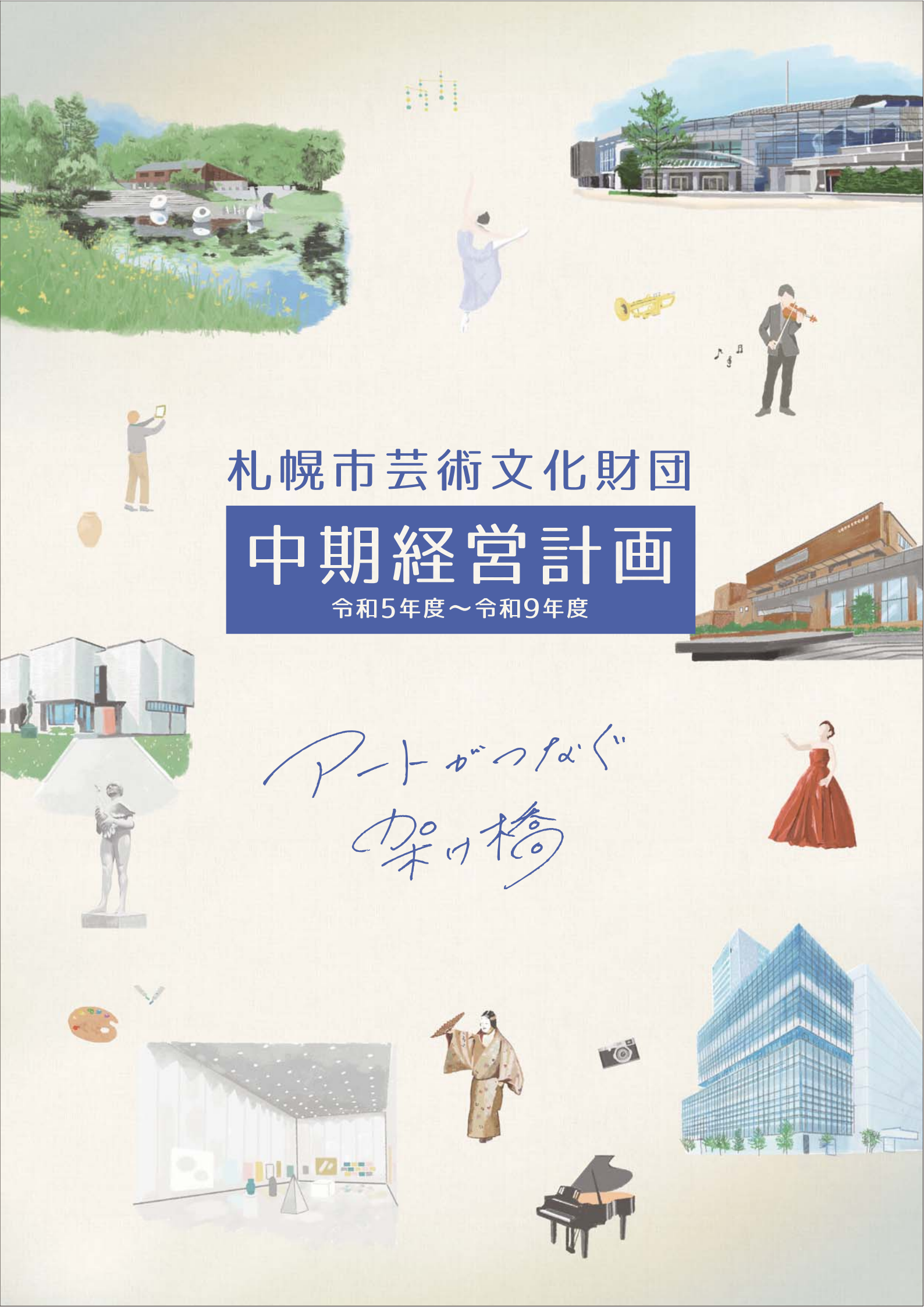




札幌市芸術文化財団

中期経営計画

令和5年度～令和9年度

アートがっばぐ
架け橋

01

策定にあたって

In formulating

札幌市芸術文化財団は札幌市の指定管理者として、札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館、札幌コンサートホールKitara、札幌市教育文化会館、札幌市民ギャラリー、札幌市民交流プラザの文化6施設を管理運営しており、長い施設では開館から45周年を迎えました。

また昨今、社会情勢や文化芸術のあり方が大きく変化し、財団として期待されることや果たすべき役割も変化している中で、平成30年度の札幌市民交流プラザ開館に伴い、財団の規模も急速に拡大しました。

こういった大きな転換期においても、職員が共通の目標を持ち、施設が連携することで、これまで以上に札幌市の文化芸術振興を図り、かつ、的確で効率的な経営の実現を目指すため、令和5年度からの5年間にわたる中期経営計画を策定いたしました。

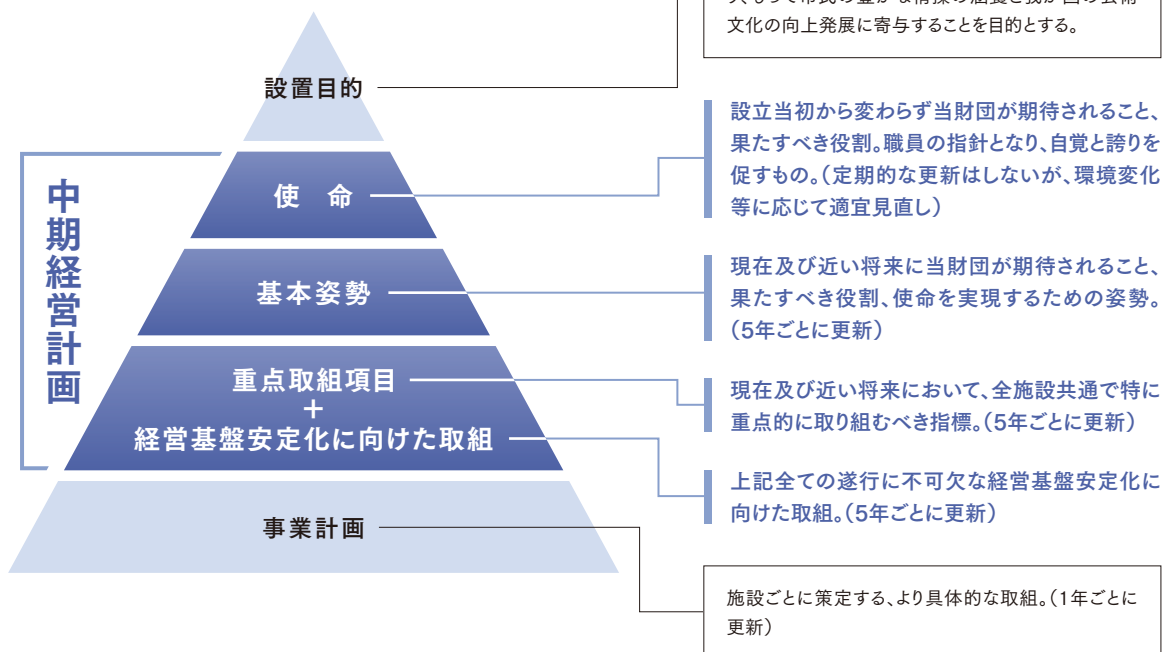
職員一人一人が自覚と誇りを持ち、財団が長年培ってきた強みを活かしながら、本計画を着実に実行してまいります。

中期経営計画の全体像

Overall picture of the medium-term management plan

02

中期経営計画は、公益財団法人としての定款第3条における「目的」に基づき、「使命」「基本姿勢」「重点取組項目」「経営基盤安定化に向けた取組」から構成されています。



策定方法

【 使命・基本姿勢 】

各施設で勤務する若手職員10名と総務課で結成したプロジェクトチームによるグループワークを中心に策定。多くの職員からも広く意見募集を実施。

【 重点取組項目・経営基盤安定化に向けた取組 】

課長職からの意見やアイデアをもとに、常勤役員と部長職によるグループワークを中心に策定。



使 命

Mission



私たちは

札幌の芸術文化の振興を担う団体として

これまで築いてきた

総合力とネットワークを活かし

誰もが芸術文化に触れる機会を生み出し

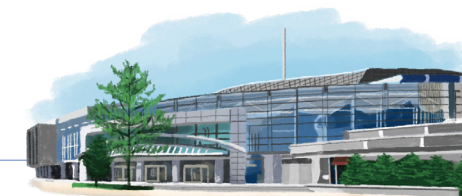
感動の輪を広げていくことで

人と人が心豊かにつながる未来を創造します

【 使命に込められた意味 】

当財団は、札幌の文化拠点である6つの施設で、長年にわたり、企画・運営を担ってきました。これまでの運営を通じ、多彩なジャンルの芸術文化を提供できる専門性、施設間で効果的に連携できる組織力、関連団体との幅広いネットワーク等を築き上げてきました。

これらを最大限に活用し、子どもから大人、障がいのある方や外国人の方、アーティストなど、あらゆる人が芸術文化に触れ、また創作、表現できる機会を充実させることで、心はずむような体験との出会いを創出します。



03

このような心はずむ体験との出会いが感動となり、人々の豊かな情操や創造性あふれる人間性を育みます。そして、より多くの人が感動に出会い、共有し、感動の輪が広がっていくことで、芸術文化をきっかけとして、人と人との交流が生まれ、多様性を認め合う活気あふれる社会の礎となります。この感動との出会いを札幌から全道・全国、また世界へと広げていくとともに、未来に向けても持続的なものとできるよう次世代を担う子どもたちやアーティストをはじめとして多方面から人々の育成・支援に取り組みます。

【 使命を端的に表した表現 】

アートがっ ぱぐ 架け橋



基本姿勢

Basic stance

04



1 | 多彩な芸術文化の提供と他分野連携で 都市ブランド向上に貢献

長年にわたり多彩な事業を展開し培ってきた経験や専門的な人材を有する組織力、幅広いネットワークを活かすとともに、それぞれの特性を最大限発揮してきた管理施設を相互に連携させることで、子どもから大人、障がいのある方や外国人などあらゆる人々へ、魅力的な芸術文化に触れる機会と新たな感動との出会いを提供します。加えて、芸術文化がもつ創造性を活用することで、教育や福祉、観光等との連携を強化し、都市ブランドの向上に寄与します。



2 | 誰もが快適に利用できる施設を運営し、 人々と芸術文化をつなぐ



文化施設の運営団体として、利用者満足度やサービスの維持向上のために様々な取り組みを充実させることで、誰もが安心して快適かつ平等に芸術文化活動ができる場を提供します。また、財団が管理運営を行う多様な施設を効果的に活用し、人々と芸術文化をつなぐ拠点としての役割を最大限発揮できるよう取り組みます。



3 | 市民の豊かな感性の涵養によるまちづくりと人材育成

芸術文化の提供を通じ、未来を担う子どもたちをはじめ、市民一人ひとりの豊かな感性を育み、人々の交流を促進していくことで、創造的で活力あふれるまちづくりに貢献します。また、芸術文化活動を行うアーティストや団体、鑑賞者などを育成、支援するとともに、活動を支えるボランティアが活躍できる機会を創出し、札幌の芸術文化の継承、発展に寄与します。

重点取組項目

Priority action items



05

1 | 芸術文化との出会いを全ての人へ提供

【1】社会包摂を意識した運営

これまで、ユニバーサルデザインへの取組や施設の無料開放、参加しやすい料金の設定、多言語対応等を実施し、そのノウハウを蓄積してきました。今後はさらに包摂性を念頭に置いて事業企画や施設運営に取り組み、障がいの有無、経済状況、国籍や年齢などに関わらず、全ての人が身近なものとして芸術文化の魅力に触れ、楽しむことができる機会を提供します。

【2】オンライン技術の効果的な活用

情報通信技術の急速な発展と普及に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な状況でオンライン技術の効果的な活用が求められています。引き続き、事業企画において時代の変化に対応した多様な芸術鑑賞スタイル等を模索し、また施設運営においてインターネットや通信端末等を活用した利便性の高いサービスを提供します。



2 | 次世代を担う人々の育成・支援

【1】子どもたちの芸術文化活動の充実

これまで、子どもの頃から芸術文化に親しむことができる事業、また本物の芸術文化を体験することができる事業を積極的に実施してきました。今後もこれらの事業を充実させ、未来を担う子どもたちの豊かな感性や創造力、さらに多様性を認め合う心を育みます。

【2】若手アーティスト等の活動支援

芸術文化の魅力を次世代へ継承していくためには、若手アーティスト等の活躍が必要不可欠です。長期的な視点を持ち、若手アーティスト等へ発表の場や活動の機会を提供するなど、段階に応じたチャレンジやステップアップへの支援の充実を図ります。

3 | 様々な「連携」を図り、当財団ならではの特色ある芸術文化事業を展開

【1】施設間連携のさらなる強化

これまで、多様な施設を管理運営する当財団のメリットを踏まえ、各施設の特色を活かした連携事業を実施してきました。今後はこの施設間連携を充実させ、さらに魅力的な事業を展開することで、新たな感動の提供を目指します。

【2】他分野との連携の推進

特に教育分野においては、創造性が発露しやすい芸術文化への期待度は非常に高く、積極的に連携を図ってきました。また、芸術文化がもつ創造性の活用は、教育にとどまらず、まちづくり、経済、福祉、観光等の分野においても期待されています。当財団が有する高い専門性を活かし、これらの分野との連携をより一層推し進めることで、まちの活性化と魅力向上に寄与します。



経営基盤安定化に向けた取組

Efforts to stabilize the management base

06



1 | 人 材

当財団は、札幌における芸術文化施設の運営に関して最も経験豊富な団体であり、多岐にわたる高度な専門性や企画力、高い利用者満足度を維持するための様々なノウハウを保持し、関連団体や地域と良好な関係を築いてきました。

〔1〕 職員の採用

こうした強みを維持向上させるために必要である意欲の高い人材の確保について、中長期的な見通しに基づき進めます。



〔2〕 職員の育成

実践につながる研修や研鑽の機会の一層の充実や、個性や能力等に応じた管理職からの定期的なフィードバック等により、職員一人一人の能力や意識、意欲の向上を図り、組織の持続的な発展を目指します。

2 | 財 務

当財団の使命を遂行するためには、自己財源の安定的な確保と、収入と支出のバランスが取れた適切な経営が必要なことから、以下の取組を行います。

- ① 快適な施設利用のための設備改修と、効率的な管理運営

- ② 事業における適正な料金の検討と、幅広い事業展開による収入の確保

- ③ 様々な情報媒体の活用と、あらゆる世代に向けての情報発信による利用者数の増加

- ④ 協賛金や助成金等による外部資金の獲得と、効果的な資産運用



管理運営施設

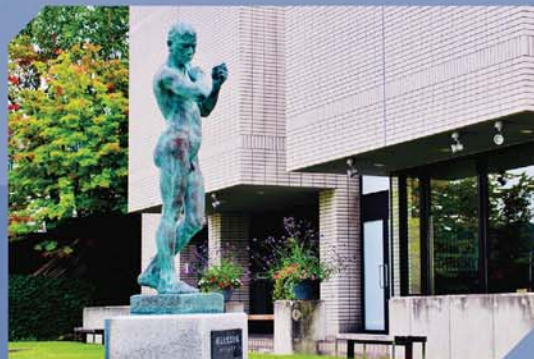
Administrative facilities



札幌芸術の森

昭和61(1986)年7月 開園

〒005-0864 札幌市南区芸術の森2丁目75番地



本郷新記念札幌彫刻美術館

昭和56(1981)年6月 開館

〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目



札幌コンサートホールKitara

平成9(1997)年7月 開館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番15号



札幌市教育文化会館

昭和52(1977)年7月 開館

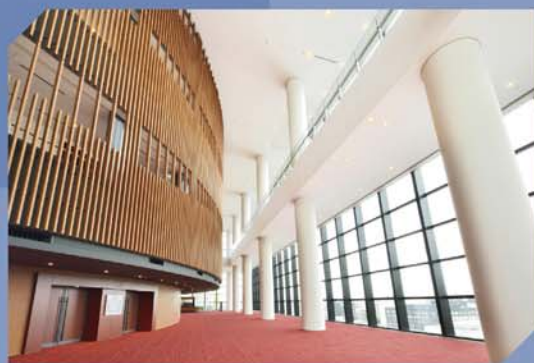
〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目



札幌市民ギャラリー

昭和57(1982)年2月 開館

〒060-0052 札幌市中央区南2条東6丁目



札幌市民交流プラザ

平成30(2018)年10月 開館

〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目



組織概要

Organization

※令和5年2月1日現在

財 団 名 公益財団法人 札幌市芸術文化財団

理 事 長 秋元 克広

設立年月日 昭和61(1986)年4月1日

設 立 目 的 札幌からの新しい芸術文化の創造を目指し、芸術文化に関し、広く一般に、参加と鑑賞の機会を提供するとともに、優れた創作活動の奨励を図り、もって市民の豊かな情操の涵養と我が国の芸術文化の向上発展に寄与することを目的とする。

業 務 内 容

- 芸術文化を創造し、発信する事業
- 芸術文化の普及振興のため、芸術文化に対する育成・助成・支援を行う事業
- その他この法人の目的を達成するために必要な事業

沿 革

昭和52(1977)年4月 財団法人札幌市教育文化財団設立

昭和61(1986)年4月 財団法人札幌芸術の森設立

平成11(1999)年4月 財団法人札幌芸術の森が財団法人札幌市教育文化財団と統合し、財団法人札幌市芸術文化財団となる

平成25(2013)年4月 財団法人札幌市芸術文化財団が、公益財団法人札幌市芸術文化財団へと移行する

職 員 数
(役員等を除く)

合 計	220	プロパー職員	100	契約職員	80
		札幌市派遣職員	5	パート職員	35

ホームページ <https://sapporo-caf.org>



財務状況

Financials



		令和元年度	令和2年度	令和3年度
正味財産増減計算書	経常収益	3,722,203千円	3,304,324千円	3,854,389千円
	経常費用	3,835,002千円	3,315,760千円	3,534,087千円
	当期経常増減額	△ 112,799千円	△ 11,436千円	320,302千円
	当期一般正味財産増減額	△ 56,409千円	113,403千円	313,840千円
貸借対照表	資産	2,177,920千円	2,250,838千円	2,613,129千円
	内 流動資産	1,012,457千円	1,077,749千円	1,157,185千円
	内 固定資産	1,165,463千円	1,173,089千円	1,455,944千円
	負債	741,608千円	706,131千円	760,533千円
	内 流動負債	598,266千円	547,092千円	598,718千円
	内 固定負債	143,342千円	159,039千円	161,815千円
	正味財産	1,436,312千円	1,544,707千円	1,852,596千円



指定管理者としての指定期間

Period of designation as designated manager

	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度	令和 11年度	令和 12年度	令和 13年度	令和 14年度	令和 15年度	令和 16年度
札幌芸術の森	指定管理 第Ⅴ期					第Ⅵ期					第Ⅶ期	
本郷新記念札幌彫刻美術館	指定管理 第Ⅴ期					第Ⅵ期					第Ⅶ期	
札幌コンサートホールKitara	指定管理 第Ⅴ期					第Ⅵ期					第Ⅶ期	
札幌市教育文化会館	指定管理 第Ⅴ期					第Ⅵ期					第Ⅶ期	
札幌市民ギャラリー	指定管理 第Ⅴ期					第Ⅵ期					第Ⅶ期	
札幌市民交流プラザ	指定管理 第Ⅱ期		第Ⅲ期					第Ⅳ期				

中期経営計画
(令和5年度～令和9年度)

中期経営計画
(令和10年度～令和14年度)



公益財団法人札幌市芸術文化財団

Public interest incorporated foundation Sapporo Cultural Arts Foundation

